

第14回 ダニと疾患のインタフェースに関するセミナー 白神大会 2006

SADI ニュース

2007年3月15日 SADI 組織委員会

第14回ダニと疾患のインタフェースに関するセミナーの議事録

Proceedings of 14th Seminar on Acari-Diseases Interface 2006 in Shirakami

SADI ホームページ: <http://sadi.workarea.jp/>

第14回集会 (SADI 白神大会) は以下のとおり開催された。

1. 開催要領

ホスト 猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部)
期 日 2006年6月23日 (金) ~6月25日 (日)
会 場 平和会館 (青森県西目屋村中央公民館) 大研修室
(電話: 0172-85-2858)
宿 泊 グリーンパークもりのいずみ, アクアグリーンビレッジ ANMON, ほかに分宿
費 用 参加費: 1,500円 (疫学ツアー参加者はバス代1,000円/1名)
懇親会費: 3,000円
企 画 ベクターの介在する野生動物の疾患に関するシンポジウム
疫学ツアー (ブナ巨木ふれあいの径の観察および採集)

2. プログラム

1日目 6月23日 (金)

18:00~20:30 科学研究費課題合同班会議 (学振科研と厚生科研の合同; SADI 関係者は参加自由)

2日目 6月24日 (土)

8:00 会場前からバスにて疫学ツアー 昼食/休憩
13:00 会場へ到着
13:30 開会 (ホスト挨拶) およびオリエンテーション (組織委員会)
13:40 歓迎講演「白神の自然」 平田貞雄 (弘前大学名誉教授) 司会 藤田博己 (大原研)
14:20 休憩
14:30 一般講演

| | |
|--|-----------------|
| 1. 青森県におけるボレリアとネズミバベシアの分布特性 | 高田伸弘 (福井大) |
| 2. 南西諸島における <i>Borrelia valaisiana</i> 近縁種の浸潤 | 高野 愛 (日本大) |
| 3. 海外での <i>Borrelia valaisiana</i> 近縁種感染によるライム病輸入例 | 川端寛樹 (国立感染研) |
| 4. ダーモスコピーを用いた疥癬のスクリーニング検査法 | 和田康夫 (赤穂市民病院) |
| 5. ダニのミトコンドリア遺伝子解析 | 三谷春美 (福山大) |
| 6. <i>Leptotrombidium</i> 属ダニは2系統に分岐する | 湯浅伸輔 (福山大) |
| 7. 徳島県のツツガムシ病 | 馬原文彦 (馬原医院) |
| 8. 福岡県の紅斑熱患者発生地における媒介マダニの調査 | 山本正悟 (宮崎県衛生環境研) |
| 9. マダニを付着してきた日本紅斑熱の一例 | 馬原文彦 (馬原医院) |
| 10. 35年目に日本紅斑熱と確定診断された一死亡例の発掘経緯 | 馬原文彦 (馬原医院) |
| 11. 日本紅斑熱の病理 | 堤 寛 (藤田保衛大) |
| 12. エーキリアおよびアナプラズマのゲノム構造解析の紹介 | 大橋典男 (静岡県立大) |

18:00 休憩, 別刷交換
18:30 懇親会

3日目 6月25日 (日)

8:30 シンポジウム「野生動物のダニと疾患」 司会 猪熊 壽 (帯畜大)

13. ニホンジカの生態 鈴木正嗣 (北海道大)
 14. アライグマと共通感染症 丸山総一 (日本大)
 15. 野生動物の疥癬 野上貞雄 (日本大)
 9:30 一般演題
 16. わが国の放牧牛を対象としたマダニの分布調査 山根逸郎 (動物衛生研)
 17. 鹿児島県内の野鼠及びダニ類からの病原体検索 (2004~2005年度) 御供田睦代 (鹿児島県環境保健センター)
 18. わが国の野生齧歯類における *Bartonella* 属菌の分布 井上 快 (国立感染研)
 19. 輸入げっ歯類のライム病調査 磯貝 浩 (北海道医療大)
 20. アフリカ野生動物の腸内フローラのメタゲノム解析—アフリカゾウとキリン 磯貝恵美子 (札幌医科大)
 11:30 閉会 事務連絡 (組織委員会) 解散

3. 登録参加者名簿 06年6月上旬現在

安藤 秀二 (国立感染症研究所)
 有安 ゆき子 (弘前大学)
 馬場 俊一 (馬場皮膚科医院)
 馬場 厚子 (同夫人)
 藤田 博己 (大原研究所)
 福長 将仁 (福山大学薬学部分子微生物)
 古屋由美子 (神奈川県衛生研究所)
 御供田睦代 (鹿児島県環境保健センター)
 猪熊 壽 (帯広畜産大学畜産学部)
 井上 智 (国立感染症研究所)
 石本 万紀子 (福井大学医学部)
 磯貝 恵美子 (札幌医科大学)
 磯貝 浩 (北海道医療大学)
 磯貝 なゆた (岩手大学)
 岩崎 博道 (福井大学医学部)
 吉林台 (ジリナイ) (帯広畜産大学院生)
 片山 丘 (神奈川県衛生研究所)
 川端 寛樹 (国立感染症研究所)
 川森 文彦 (静岡県環境衛生科学研究所)
 岸本 寿男 (国立感染症研究所)
 小西 健治 (帯広畜産大学学生)
 久保田 直樹 (帯広畜産大学学生)
 馬原 文彦 (馬原医院)
 馬原 けい子 (同夫人)
 丸山 総一 (日本大学生物資源科学部)
 三谷 春美 (福山大学薬学部分子微生物)
 宮崎 直美 ((株)ゼノアック)
 野上 貞雄 (日本大学生物資源科学部)
 及川 陽三郎 (金沢医科大学)
 大橋 典男 (静岡県立大学)
 大滝 倫子 (九段坂病院)
 大滝 哲也 (東京都)
 小河 正雄 (大分県衛生環境研究センター)
 小河 明美 (同夫人)
 岡 恵子 (日本通運健康保険組合東京病院皮膚科)
 坂田 義美 (メリアル・ジャパン株式会社)
 清野 信隆 (帯広畜産大学学生)
 柴田 明子 (動物検疫所成田支所)
 鈴木 正嗣 (北海道大学獣医学部)
 高田 伸弘 (福井大学医学部)

田川 道人 (帯広畜産大学学生)
高野 愛 (国立感染症研究所)
田原 研司 (島根県保健環境科学研究所)
玉本 智枝 (帯広畜産大学学生)
多村 憲 (新潟市)
多村 美那子 (同夫人)
湯浅 伸輔 (福山大学薬学部分子微生物)
鳥日図 (ウトリ) (静岡県立大学)
和田 康夫 (赤穂市民病院皮膚科)
山本 正悟 (宮崎県衛生環境研究所)
山根 逸郎 (動物衛生研究所)
柳原 保武 (元静岡県立大学)
矢野 泰弘 (福井大学医学部)
吉田 芳哉 ((株)シマ研究所)

4. 次回開催の予告

ホスト：山本正悟（宮崎県衛生環境研究所）

期日：2007年5月25日（金）～5月27日（日）の予定

会場：宮崎県立図書館 第1会議室

(〒880-0031 宮崎県宮崎市船塚3-210-1 Tel. 0985-29-2911)

交通：宮崎空港からバスで40分、宮崎駅からバスで15分など交通の便良好
宮崎市内のホテルからのアクセスも容易

案内：1月末に案内を配布，3月末に仮プログラムを発送の予定

編集や事務連絡などは下記まで

- ・高田伸弘（福井大学医学部）
〒910 - 1193 福井県吉田郡松岡町下合月23-3
Tel 0776-61-8330（直）
Fax 0776-52-3133（直）
e-mail acaritakada@m7.dion.ne.jp
- ・藤田博己（大原研究所）
〒960-0195 福島県福島市鎌田字中江33 大原医療センター内
Tel 024-554-2001(235)
Fax 024-554-2014（代）

SADI 組織委員会

医ダニ学担当

- ・高田伸弘、矢野康弘（福井大学医学部）
- ・藤田博己（大原研究所）

臨床医学担当

- ・馬原文彦（馬原医院）
〒779-1510 徳島県阿南市新野町信里町6-1
Tel. 0884-36-3339 Fax. 0884-36-3641
- ・大滝倫子（九段坂病院）
〒102-0074 千代田区九段坂南2-1-39
Tel. 03-3262-9191 Fax. 03-3264-5397

微生物学担当

- ・岸本寿男（国立感染症研究所）
〒162-8640 東京都新宿区戸山1-23-1
Tel. 03-5285-1111 Fax. 03-5285-1208
- ・吉田芳哉（株式会社シマ研究所）
〒174-0063 東京都板橋区前野町3-6-10
Tel. 03-3966-2283

後記

今回は、2年前の屋久島大会で味をしめたというわけではないのですが、再び世界遺産大会となりました。この経緯にちょっと触れますと、ホストの猪熊先生には2～3年前から山口県（秋吉台）で開催いただく打診をしておりまして、先生ご自身が山口大学から帯広畜産大学へ移られるということでペンディング、翌年に帯広で開催かというところを前年に同市で日本ダニ学会が開催されてしまったので、また帯広で開催もいかなものか、とは言え北日本で開催する順番ではあるということで、ではどこが良いか…そうそう、世界遺産シリーズで青森県白神山地がよかろうという、安直といえ言えなくもない理由で決まったものでした。ただ、猪熊先生は白神に土地勘は全く無いという点をどうするか、そこは高田と藤田が十分な土地勘そして最近2年続けて調査に入っていることから支援は容易であるという、そういった背景で猪熊先生にはお受けいただいたものでした。

いざ地元の教育委員会や宿泊施設に協力要請してみますと、思った以上に準備はスムーズに進み、皆様をご存知のように大過なく運営できました。もちろん、参加者および関係者全員のご支援によるものである点、改めてお礼申し上げます。折り悪く参加いただけなかった方々には、このニュースをお読みいただければご理解そして何らかお役に立つこともあろうと信じる次第です。

次回開催は、宮崎市郊外で、ホストは同県衛環研の山本正悟先生です。そこでの疫学ツアーは広大な照葉樹林で知られます綾町とのこと、これも偶々でしょうが、「綾の照葉樹林」ということで世界遺産認定を目指しているとも聞きます。そうなりますと、次々回の開催地はどこの世界遺産でありましょうか、けっして悪乗りの意味でなく、ご期待下さい。

(文責 高田伸弘)